

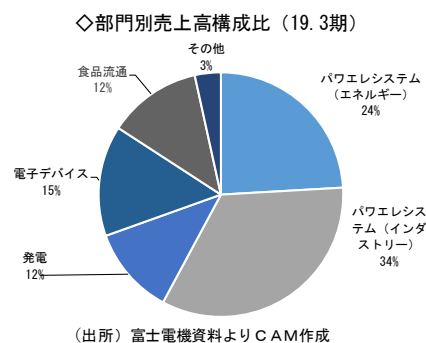
企業ニュース 富士電機

(東証1部：6504) <http://www.fujielectric.co.jp/>

作成者：奥村義弘

パワエリシステムやパワー半導体に強み

1923年創業。創業以来培ってきたエネルギー・環境技術をコアに事業を展開する。当社が得意とするキーデバイスの一つパワー半導体とは交流を直流にしたり、また直流を交流にしたり、電圧を昇降圧したりする電気エネルギーの制御や供給を行う半導体。モータの回転を制御するインバータやスイッチング電源などに使用され、省エネルギー化を図ることができる。当社はこのパワー半導体やセンサといったキーデバイスを活用した計測機器や制御機器、器具などのコンポーネントにIoT・制御技術などを組み合わせ、電力の制御や社会インフラ・産業分野の安全操業を支える様々なシステムソリューションを提供している。



今期も最高益の更新を目指す

19.3期の連結業績は、売上高が9,149億円、前期比2%増、営業利益が600億円、同7%増。営業利益は過去最高を更新した。食品流通を除く全セグメントで増収、パワエリシステム（エネルギー）と電子デバイスを中心に増益となった。パワエリシステム（エネルギー）では施設・電源システムの国内大口案件が寄与した。電子デバイスでは半導体は下期以降、国内の産業向け需要が減少したものの、自動車分野向け需要が堅調、ディスク媒体の需要増加も寄与した。

20.3期の会社計画は売上高が9,300億円、前期比2%増、営業利益が620億円、同3%増。成長をけん引するのがパワエリシステム（インダストリー）と電子デバイスである。パワエリシステム（インダストリー）ではアジアでのシステム事業の拡大、国内の更新需要などを見込む。電子デバイスは、電動化を背景とした自動車向けの需要拡大、海外での再生可能エネルギーの需要拡大などを見込む。今期の設備投資は537億円、同24%増だが、うち341億円を電子デバイスに充てる。前工程は8インチ半導体の生産能力を増強。後工程は自動車向け新製品の量産立ち上げ、産業向け第7世代IGBT（絶縁ゲート型バイポーラトランジスタ）の生産増を図る。

【株価動向・投資判断】

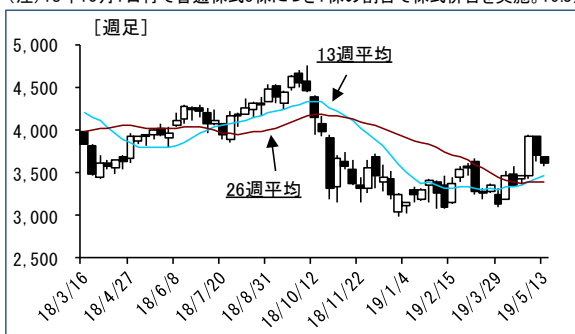
好調なパワー半導体を中心に増産投資を進めている。車載関連の研究開発にも力を入れており、中長期でのビジネス拡大期待が大きい。また収益性が改善している点も評価できよう。

<6504 富士電機 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は日経予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	893,451 (7)	55,962 (25)	56,047 (21)	37,763 (▲ 8)	52.9	14.00
19.3	914,915 (2)	59,972 (7)	63,479 (13)	40,267 (7)	281.9	48.00
20.3 予	930,000 (2)	62,000 (3)	63,600 (0)	40,400 (0)	282.8	80.00

(注) 18年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施。19.3期の1株配当は第2四半期末の8.00円と期末の40.00円の単純合計



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2019/5/13)	3,620 円
年初来高値 (高値日)	3,950 円 (19/4/26)
同 安値 (安値日)	3,025 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	12.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,470.6 円
P B R	1.47 倍
予想配当利回り	2.21 %
(1株当たり配当金80.00円)	
R O E (19.3)	11.8 %
発行済み株式数	14,930 万株